

〔共済連だより〕

家畜診療日誌

南部家畜診療所 大屋卓志

最近新聞やニュース報道等で医師の不足が報じられております。それにより臨床現場の医師は過酷な勤務により過労死になる人や過労勤務に耐えかね辞職する人も増えており医師不足に拍車をかけているようです。特に産婦人科医の不足は顕著で、都道府県のある地域や島においては産婦人科医が皆無の状態となり、他の地域で産前産後の様態を診療依頼しなければならぬ状態となってきました。少子化時代といわれるこの時代に、生まれてくる子供、母親の安全が確保されがたいという現実に憂いを感じる今日この頃であります。産業動物臨床現場も同様であり産業物臨床を目指す獣医系の学生が減少しており全国的に農業共済の獣医師不足となり大きな問題となっています。牛においても分娩ということは大変重要な要因であります。酪農経営の中でその牛の潜在的泌乳能力をうまく発揮させるために重要なことは分娩であります。

この分娩をうまく乗り切るにより産褥期の病気を減少させることができます。まず難産により子牛が死亡すると将来酪農経営に大きな損失となります。

診療業務を行う上で、難産時の子牛の死亡による畜主の落胆する姿はつらく平成16年度より開始された乳牛の子牛、胎児の共済制度は農家にとって安心の一つであります。そして難産による起立不能、分娩後多発する第四胃変位による死産事故は酪農経営上大きな損失となり乳牛の能力を低下させる要因となります。

周産期病により分娩後の子宮の回復が遅れると繁殖障害の原因となり、また乳房浮腫が長く残り、乳房を変形させ泌乳量を減少さ

せ、乳頭踏傷や乳房炎を起こすことが多くなります。これらの分娩後に発生する疾病は産前よりカルシウムの低下を予防することで減少させることができます。分娩時のカルシウムの低下を産前から予防することが死産事故を低減し収益を増大し酪農経営を安定させる大きな要因となります。また分娩室を設けることも大変重要であります。

母牛を自由にし、ストレスを軽減させ、安全な環境で分娩させることで産後の起立不能、乳頭踏傷を効果的に予防することができます。また異常産ウイルスによる胎児の流死産はワクチン接種により予防することができます。近年酪農家戸数が減少する一方で一農家あたりの飼養頭数が増加する傾向にあります。また診療所も統廃合が進んでいく方向にあります。このような時代的背景を考えると、個体診療のみならず各診療所とも農家の収益を増大させる生産獣医療に取り組んでいく必要性を強く感じます。特に分娩から分娩後の疾病を減少させ乳牛の能力を発揮させる方法を確立することが重要になってくると考えます。